

<div><div><div>○ 校務分掌部の反省<ul style="list-style-type: none">・ 学期ごと・ 年度ごと</div><div>○ 児童生徒の実態<ul style="list-style-type: none">・ 各種検査の結果・ 日常の様子</div><div>○ 保護者・地域の意見</div><div>○ その他</div></div></div> <div><div>令和3(2021)年度</div><div>日向市立東郷学園・坪谷小学校</div><div>小中一貫教育グランドデザイン</div></div> <div><div>学校評価</div><div>○ アンケートの結果<ul style="list-style-type: none">・ 児童生徒・ 保護者</div><div>○ 学校の自己評価・改善策</div><div>○ 学校運営協議会委員の意見</div></div>		目 標	知（進路学習部） ■ 学習指導や読書の推進を通して、読む力と豊かな心を育てます。	徳（生徒指導部） ■ 自己有用感を持った児童生徒を育てます。	体（保体安全部） ■ 自他の命を大切にできる児童生徒を育てます。	地域（教務研究部） ■ 家庭・地域と目標を共有し、郷育を推進します。	具体的取組	1 読書の習慣化を図り、自分の考えをわかりやすく伝える力を育てます。 ① 朝読書の取組 ② 家庭での読書活動の推進（1日30分読書） ③ 読書通帳の活用 2 家庭学習の習慣化を図り、自ら学ぶ力を育てます。 ④ 学習の見届け（小学部） ⑤ テスト前学習計画表の作成と見届け（中学部） ⑥ 「みんたく」（みんなで宅習を見守ろう）の取組 3 学習訓練の徹底を図り、学ぶ姿勢を育てます。 ⑦ 「学習の約束」の徹底（1分前着席・返事・立腰）	1 身なりを整え、あいさつができ、無言清掃を行う児童生徒を育てます。 ① 児童生徒自身で身なりを整える体制の整備 ② あいさつ運動の実施 ③ 清掃活動を通したきれいな学校づくりの推進 2 時間を大切にする児童生徒を育てます。 ④ 登下校時刻を守る。 ⑤ 授業開始・終了時刻を守る。	1 体力向上に関する取組や食育を通してたくましい体づくりに務める児童生徒を育てます。 ① 体力向上プランの作成・実践 ② 食に関する指導全体計画の実践と見直し 2 「早寝・早起き・朝ご飯」や「メディアコントロール」などの生活リズムを整え、健康の増進に務める児童生徒を育てます。 ③ 健康カレンダーの作成・実践 ④ 家庭と連携したメディアコントロールの取組	1 地域と連携しながら、あいさつ運動・安全教育を実施します。 ① まちづくり協議会と連携したあいさつ標語作成 ② 放送を活用したいのちを大切にする取組 ③ 若竹集会を軸とした交通指導 2 地域の素材・人材を生かした体験活動及びキャリア教育を実施します。 ④ 生活科や総合的な学習の時間を中心とした積極的な体験活動の実施 ⑤ 出前授業・よのなか教室の実施	結 果	① 小学部、中学部とも朝読書の取組が定着してきた。 ② 30分の読書時間は確保が困難であるようだ。保護者のアンケートからは、なかなか実践できていないようすが伺える。 ③ 読書通帳に記入することで徐々に増える読書量を確認することができるため、積極的な活用が見られる。 ④ 学習の見届けは、毎日学級担任が行っている。 ⑤ これまでに2回取り組んでいる。 ⑥ 家庭学習に対する児童生徒の意識を高めている。 ⑦ 学年の発達の段階に応じた指導ができている。	① 児童生徒とも、季節や活動に合った身なりを整えることができていた。 ② あいさつ運動については、コロナの感染予防等で行動制限が発生したこともあり、実施できなかった。 ③ 無言清掃や気づきの清掃等に気を付けながら、きれいな学校づくりを進めることができた。 ④ 数名の児童生徒が、登校時刻に間に合わないことがあった。 ⑤ 小学部、中学部とも、授業開始、授業終了の時刻を守ることができた。	① 体力向上プランを作成し、課題解決のための実践に取り組むことができた。しかし、コロナ感染予防のため、活動が制限されたこともあり、体力向上に十分つながったとは言えない。 ② 食に関する指導全体計画の実践と見直しを行うことができた。 ③ 健康カレンダーを作成し、実践することができた。 ④ 2学期からメディアコントロールについて取り組んでいる。資料を配付したり、学級懇談の話題として情報提供するなどの取組を行い、一定の成果をあげることができた。	① あいさつ標語を全校児童生徒で作成し、優秀な作品については表彰を行った。児童生徒があいさつの大切さを学ぶ取組である。校門でのあいさつ運動は行うことができなかった。 ② 実施することができた。 ③ 若竹集会では、講師を招聘し交通安全に対する意識の高揚を図ることができた。 ④ 小学部では、さつまいもやもち米などの栽培を行った。中学部では、まちづくり協議会と連携し懇話会や清掃活動を実施することができた。 ⑤ 出前授業やよのなか教室については、時期をずらし行うことができた。	改 善 策	② 30分読書に代え、朝読書等、毎日読書をする習慣付けを行う。また、学校通信や学級通信、学級懇談等で保護者向けに取組の様子を紹介する。 ①④⑤⑥⑦ 一定の成果が見られる。今後とも取組を継続していく。	② コロナ禍の中でも可能なあいさつ運動について模索していく。 ④ 家庭と連携したり、小学部の登校班会で指導したりして時間を守って安全に登校できるよう指導していく。 ①③⑤ 一定の成果が見られる。今後とも取組を継続していく。	① コロナ感染予防のため、体育学習にも年間計画変更等の行動制限が生じた。今後コロナの状況も見極めながら可能な活動を実施し、体力の向上につなげていきたい。 ④ 現時点で2回のメディアコントロール週間の取組を実施した。集計結果からは、各家庭で、各学部ごとの取組や各家庭のきまりを実践することができている。今後は週間にこだわらず、日常の活動となるように進めていきたい。 ②③ 計画的に実践できている。	① コロナの状況も踏まえながら、その時点で実施可能なあいさつ運動に取り組む。 ②③④⑤ 天候やコロナ感染予防の状況にあわせ期日や活動内容の変更を行いながら、今後も活動を継続していく。	評価	A (B) C ○ 小学部の1年生にも朝読書の取組が定着している。 ○ 家庭での30分読書が実践できていない様子が結果として報告されている。8月4～5日に本県で開催されるNIEが話題になっているが、家庭での読書に新聞を読むことを提案すると良いのでは・・・。読解力の向上とともに、社会の状況、自分と違うものの考え方などいろいろなことが身に付くと思う。 ○ 現状のまま続けてほしい。 ○ 読書通帳の習慣化をぜひ ○ 学習の見届けの結果は？保護者の反応はどうか。 ※先生方の苦勞が伺える。 ○ できれば、保護者の評価と意見も確認してみたい。 ○ 結果を見ると、先生方の努力と児童生徒の取組の成果が汲み取れる。ただ、家庭での取組も大切なのは、理解できてはいるがそれが成果にはなかなか結びついていないのが感じ取れた。 ○ 私自身の育児を振り返っても反省はいっぱいあるが、読書については、低学年時の取組がとても大切だったと痛感させられています。 ○ 朝読書を通して、読解力をつけること、集中力を養うことに繋がっており、一定の成果が見られると思う。 ○ 自宅での読書習慣は、家庭の協力と本人の意識づけが必要と思うので、今後も積極的に取り組んでいただきたい。	A (B) C ○ あいさつ運動は、あまり良くない。特に小学部の子ども達が自分からあいさつをしない。 ○ 自転車通学の生徒が近くを通ってもあいさつをしない。 ○ あいさつをするとき、きちんと立ち止まってあいさつする学校が紹介されていた。東郷学園でも取り入れないか。 ○ 送迎される子ども達が多い。しかも送迎される子ども達ほど学校に来る時間が遅い。 ○ 服装、身なりともきちんとしていて清々しい。 ○ 小学部では自分達からあいさつのできる子ども達が少なくなった。 ○ コロナ禍での指導が大変だと思う。 ○ ①について、校則の見直しで生徒、先生、保護者の意見で良い形ができたと思う。 ○ コロナ禍あり、あいさつ運動の活動は、難しかったと思う。 ○ 無言清掃の取組は一定の成果が出たと評価したい。初めて清掃の時間にお伺いしたとき、驚きと感動を覚えた。 ○ 自己有用感を育てることを主観とした場合、「挨拶ができました」「掃除ができました」「学校の規則を守ることができました」の自己満足感でとどまっているような気がする。自分を必要としているんだという認識に届いているのか分かりづらく感じた。そこが計れるものがないなと思った。	A (B) C ○ 日頃から積極的に運動する姿は見られないが、持久走など最後まで走り抜く姿に感動した。 ○ 児童生徒のスマホの所有率も高まり、SNSの取扱い指導が大変だと思う。いろんな研修の場を設けていただき事故の未然防止に努めていただきたい。 ○ コロナ禍の中では、思うように活動ができなかったと思うが、頑張っている様子が見られた。 ○ 学校と家庭の連携を密にしてほしい。 ○ 中学部の部活動部員が少なくなっているが、小学部も高学年からクラブ活動名目で部活動に参加できないか。（練習生的な） ○ コロナ禍の中、指導される先生方、児童生徒もともに活動を制限される場面があったことだと察せられる。 ○ メディアコントロールについては、難しい部分があると思うが、各学部や家庭との連携にて計画的に実践できているとのことで学校の努力に感謝する。 ○ 個人の健康からアプローチしており、コロナ禍のなか、体力向上プランの実施は難しかったのではないと思う。 ○ メディアコントロールへの取組はよい取組だと思う。親世代でも自宅でスマホを手放さない状況ですので、今後大きな成果を上げる取組だと思う。 ○ 他者の命の大切さが見えてこないの、この部分の改善は必要と感じる。	A (B) C ○ あいさつ運動標語は、子ども達が家族と一緒にあいさつについて話し合う場になるといい。 ○ 9年生が行った「将来帰ってきたくなるふるさど」の授業では、ワークショップでいろんな意見が出され、「えんがわ会議」にも参加し、積極的に意見を出していた。 ○ 8年生は、山陰百姓一揆の調べる活動を継続して行い、まちづくりに参加する意欲が見られた。 ○ さつまいも、米づくりは、単に栽培だけでなく食につなげると良い。 ○ コロナ禍の中、地域の行事等が中止になり、子ども達とのふれあいの場が少なかった。 ○ まちづくり協議会との共同作業についてこれからも積極的な活動をお願いしたい。 ○ コロナ禍での活動、ありがたい。 ○ コロナ禍のため、これまでの地域協力者との連携が取りづらくなっていると思います。状況を注視しながら地域とのつながりを大切にしていければと思います。 ○ 今の状況の中で地域が児童生徒に関わるのが困難でした。 ○ いろいろな制限のある中での児童生徒がストレスをためることはなかったのかと思いました。学校の先生方の努力に感謝。 ○ コロナ禍のなかで地域と一緒に取り組む方法を模索し、活動につなげていた。まちづくり協議会との活動連携やよのなか教室、出前授業等の活用等、時期を見ながら対応できていたと思う。 ○ 活動のなかに家庭が見えてこないの、なにがしかの改善が必要だと思う。
目 標	知（進路学習部） ■ 学習指導や読書の推進を通して、読む力と豊かな心を育てます。	徳（生徒指導部） ■ 自己有用感を持った児童生徒を育てます。	体（保体安全部） ■ 自他の命を大切にできる児童生徒を育てます。	地域（教務研究部） ■ 家庭・地域と目標を共有し、郷育を推進します。																						
具体的取組	1 読書の習慣化を図り、自分の考えをわかりやすく伝える力を育てます。 ① 朝読書の取組 ② 家庭での読書活動の推進（1日30分読書） ③ 読書通帳の活用 2 家庭学習の習慣化を図り、自ら学ぶ力を育てます。 ④ 学習の見届け（小学部） ⑤ テスト前学習計画表の作成と見届け（中学部） ⑥ 「みんたく」（みんなで宅習を見守ろう）の取組 3 学習訓練の徹底を図り、学ぶ姿勢を育てます。 ⑦ 「学習の約束」の徹底（1分前着席・返事・立腰）	1 身なりを整え、あいさつができ、無言清掃を行う児童生徒を育てます。 ① 児童生徒自身で身なりを整える体制の整備 ② あいさつ運動の実施 ③ 清掃活動を通したきれいな学校づくりの推進 2 時間を大切にする児童生徒を育てます。 ④ 登下校時刻を守る。 ⑤ 授業開始・終了時刻を守る。	1 体力向上に関する取組や食育を通してたくましい体づくりに務める児童生徒を育てます。 ① 体力向上プランの作成・実践 ② 食に関する指導全体計画の実践と見直し 2 「早寝・早起き・朝ご飯」や「メディアコントロール」などの生活リズムを整え、健康の増進に務める児童生徒を育てます。 ③ 健康カレンダーの作成・実践 ④ 家庭と連携したメディアコントロールの取組	1 地域と連携しながら、あいさつ運動・安全教育を実施します。 ① まちづくり協議会と連携したあいさつ標語作成 ② 放送を活用したいのちを大切にする取組 ③ 若竹集会を軸とした交通指導 2 地域の素材・人材を生かした体験活動及びキャリア教育を実施します。 ④ 生活科や総合的な学習の時間を中心とした積極的な体験活動の実施 ⑤ 出前授業・よのなか教室の実施																						
結 果	① 小学部、中学部とも朝読書の取組が定着してきた。 ② 30分の読書時間は確保が困難であるようだ。保護者のアンケートからは、なかなか実践できていないようすが伺える。 ③ 読書通帳に記入することで徐々に増える読書量を確認することができるため、積極的な活用が見られる。 ④ 学習の見届けは、毎日学級担任が行っている。 ⑤ これまでに2回取り組んでいる。 ⑥ 家庭学習に対する児童生徒の意識を高めている。 ⑦ 学年の発達の段階に応じた指導ができている。	① 児童生徒とも、季節や活動に合った身なりを整えることができていた。 ② あいさつ運動については、コロナの感染予防等で行動制限が発生したこともあり、実施できなかった。 ③ 無言清掃や気づきの清掃等に気を付けながら、きれいな学校づくりを進めることができた。 ④ 数名の児童生徒が、登校時刻に間に合わないことがあった。 ⑤ 小学部、中学部とも、授業開始、授業終了の時刻を守ることができた。	① 体力向上プランを作成し、課題解決のための実践に取り組むことができた。しかし、コロナ感染予防のため、活動が制限されたこともあり、体力向上に十分つながったとは言えない。 ② 食に関する指導全体計画の実践と見直しを行うことができた。 ③ 健康カレンダーを作成し、実践することができた。 ④ 2学期からメディアコントロールについて取り組んでいる。資料を配付したり、学級懇談の話題として情報提供するなどの取組を行い、一定の成果をあげることができた。	① あいさつ標語を全校児童生徒で作成し、優秀な作品については表彰を行った。児童生徒があいさつの大切さを学ぶ取組である。校門でのあいさつ運動は行うことができなかった。 ② 実施することができた。 ③ 若竹集会では、講師を招聘し交通安全に対する意識の高揚を図ることができた。 ④ 小学部では、さつまいもやもち米などの栽培を行った。中学部では、まちづくり協議会と連携し懇話会や清掃活動を実施することができた。 ⑤ 出前授業やよのなか教室については、時期をずらし行うことができた。																						
改 善 策	② 30分読書に代え、朝読書等、毎日読書をする習慣付けを行う。また、学校通信や学級通信、学級懇談等で保護者向けに取組の様子を紹介する。 ①④⑤⑥⑦ 一定の成果が見られる。今後とも取組を継続していく。	② コロナ禍の中でも可能なあいさつ運動について模索していく。 ④ 家庭と連携したり、小学部の登校班会で指導したりして時間を守って安全に登校できるよう指導していく。 ①③⑤ 一定の成果が見られる。今後とも取組を継続していく。	① コロナ感染予防のため、体育学習にも年間計画変更等の行動制限が生じた。今後コロナの状況も見極めながら可能な活動を実施し、体力の向上につなげていきたい。 ④ 現時点で2回のメディアコントロール週間の取組を実施した。集計結果からは、各家庭で、各学部ごとの取組や各家庭のきまりを実践することができている。今後は週間にこだわらず、日常の活動となるように進めていきたい。 ②③ 計画的に実践できている。	① コロナの状況も踏まえながら、その時点で実施可能なあいさつ運動に取り組む。 ②③④⑤ 天候やコロナ感染予防の状況にあわせ期日や活動内容の変更を行いながら、今後も活動を継続していく。																						
評価	A (B) C ○ 小学部の1年生にも朝読書の取組が定着している。 ○ 家庭での30分読書が実践できていない様子が結果として報告されている。8月4～5日に本県で開催されるNIEが話題になっているが、家庭での読書に新聞を読むことを提案すると良いのでは・・・。読解力の向上とともに、社会の状況、自分と違うものの考え方などいろいろなことが身に付くと思う。 ○ 現状のまま続けてほしい。 ○ 読書通帳の習慣化をぜひ ○ 学習の見届けの結果は？保護者の反応はどうか。 ※先生方の苦勞が伺える。 ○ できれば、保護者の評価と意見も確認してみたい。 ○ 結果を見ると、先生方の努力と児童生徒の取組の成果が汲み取れる。ただ、家庭での取組も大切なのは、理解できてはいるがそれが成果にはなかなか結びついていないのが感じ取れた。 ○ 私自身の育児を振り返っても反省はいっぱいあるが、読書については、低学年時の取組がとても大切だったと痛感させられています。 ○ 朝読書を通して、読解力をつけること、集中力を養うことに繋がっており、一定の成果が見られると思う。 ○ 自宅での読書習慣は、家庭の協力と本人の意識づけが必要と思うので、今後も積極的に取り組んでいただきたい。	A (B) C ○ あいさつ運動は、あまり良くない。特に小学部の子ども達が自分からあいさつをしない。 ○ 自転車通学の生徒が近くを通ってもあいさつをしない。 ○ あいさつをするとき、きちんと立ち止まってあいさつする学校が紹介されていた。東郷学園でも取り入れないか。 ○ 送迎される子ども達が多い。しかも送迎される子ども達ほど学校に来る時間が遅い。 ○ 服装、身なりともきちんとしていて清々しい。 ○ 小学部では自分達からあいさつのできる子ども達が少なくなった。 ○ コロナ禍での指導が大変だと思う。 ○ ①について、校則の見直しで生徒、先生、保護者の意見で良い形ができたと思う。 ○ コロナ禍あり、あいさつ運動の活動は、難しかったと思う。 ○ 無言清掃の取組は一定の成果が出たと評価したい。初めて清掃の時間にお伺いしたとき、驚きと感動を覚えた。 ○ 自己有用感を育てることを主観とした場合、「挨拶ができました」「掃除ができました」「学校の規則を守ることができました」の自己満足感でとどまっているような気がする。自分を必要としているんだという認識に届いているのか分かりづらく感じた。そこが計れるものがないなと思った。	A (B) C ○ 日頃から積極的に運動する姿は見られないが、持久走など最後まで走り抜く姿に感動した。 ○ 児童生徒のスマホの所有率も高まり、SNSの取扱い指導が大変だと思う。いろんな研修の場を設けていただき事故の未然防止に努めていただきたい。 ○ コロナ禍の中では、思うように活動ができなかったと思うが、頑張っている様子が見られた。 ○ 学校と家庭の連携を密にしてほしい。 ○ 中学部の部活動部員が少なくなっているが、小学部も高学年からクラブ活動名目で部活動に参加できないか。（練習生的な） ○ コロナ禍の中、指導される先生方、児童生徒もともに活動を制限される場面があったことだと察せられる。 ○ メディアコントロールについては、難しい部分があると思うが、各学部や家庭との連携にて計画的に実践できているとのことで学校の努力に感謝する。 ○ 個人の健康からアプローチしており、コロナ禍のなか、体力向上プランの実施は難しかったのではないと思う。 ○ メディアコントロールへの取組はよい取組だと思う。親世代でも自宅でスマホを手放さない状況ですので、今後大きな成果を上げる取組だと思う。 ○ 他者の命の大切さが見えてこないの、この部分の改善は必要と感じる。	A (B) C ○ あいさつ運動標語は、子ども達が家族と一緒にあいさつについて話し合う場になるといい。 ○ 9年生が行った「将来帰ってきたくなるふるさど」の授業では、ワークショップでいろんな意見が出され、「えんがわ会議」にも参加し、積極的に意見を出していた。 ○ 8年生は、山陰百姓一揆の調べる活動を継続して行い、まちづくりに参加する意欲が見られた。 ○ さつまいも、米づくりは、単に栽培だけでなく食につなげると良い。 ○ コロナ禍の中、地域の行事等が中止になり、子ども達とのふれあいの場が少なかった。 ○ まちづくり協議会との共同作業についてこれからも積極的な活動をお願いしたい。 ○ コロナ禍での活動、ありがたい。 ○ コロナ禍のため、これまでの地域協力者との連携が取りづらくなっていると思います。状況を注視しながら地域とのつながりを大切にしていければと思います。 ○ 今の状況の中で地域が児童生徒に関わるのが困難でした。 ○ いろいろな制限のある中での児童生徒がストレスをためることはなかったのかと思いました。学校の先生方の努力に感謝。 ○ コロナ禍のなかで地域と一緒に取り組む方法を模索し、活動につなげていた。まちづくり協議会との活動連携やよのなか教室、出前授業等の活用等、時期を見ながら対応できていたと思う。 ○ 活動のなかに家庭が見えてこないの、なにがしかの改善が必要だと思う。																						